



入学式から一週間後、宗教教育部に入った。それから四年間、紫朋館<sup>しほかん</sup>2階の部室に通い続けた。部員一二〇名を擁する大きなサークルであったが、意外とその実情は知られていない。

まずはどんなサークルなのか紹介したい。宗教教育部 — 宗<sup>しゅう</sup>育<sup>いく</sup>部<sup>ぶ</sup>は、浄土真宗本願寺派のお寺で日曜学校を行うサークルである。お寺から依頼されて、その日曜学校でスタッフとして活動するのだが、実際にはお寺から監督されることなく部員が自由に活動することが出来ていた。毎週日曜日の朝10時から12時くらいまで、お勤め・法話・ゲーム・クラフトなどを行い、子どもたちにお寺に親しんでもらうのが目的であった。

私の配属先は九条油小路にあるZ寺日曜学校であった。4回生のTさん（男性）、2回生のNさん（女性）、1回生の日野と、同級生のKさん（女性）の4名がスタッフであった。宗<sup>しゅう</sup>育<sup>いく</sup>部<sup>ぶ</sup>イコ<sup>い</sup>ル<sup>る</sup>子<sup>こ</sup>ども<sup>ども</sup>とお寺<sup>てら</sup>で戯<sup>たむ</sup>れて<sup>て</sup>い<sup>い</sup>れ<sup>ば</sup>い<sup>い</sup>よ<sup>う</sup>な<sup>な</sup>イ<sup>メ</sup>ー<sup>ジ</sup>を<sup>も</sup>っ<sup>て</sup>いたが、内情は厳しいものであった。

毎週木曜日に行われる法話の教師会は、時に2時間に及ぶこともあった。日野の法話担当時は、特に長引いた。仏教的な知識がないわりに、自分の意見に固執する性格

ゆえ、リーダーのTさんを困らせた。いま思えば恥ずかしい限りである。そのことで同級生のKさんにはよく慰められた。「日野君もがんばりゃとるんじゃけん、うちはええと思うんよ」。Kさんは、いつもわかりやすい法話で、指導を受けることはあまりなかった。一浪して入学した日野からすると、Kさんは年下なのだがしっかり者の広島女だった。

ちなみに後年、同窓会で再会したKさんに「あの頃はよく助けられたなあ」と言う

校友リレーエッセイ

## 泣いた赤鬼

1985年・文学部卒

日野 真人



と、「本当はうちも日野君の法話は何が言いたいんか、わからなかったんよ」と笑われた。でも、ありがとうKさん。あらためて情けが身にしみました。

そんなZ寺日曜学校では、年に二回、ビッグイベントがあった。7月第2土曜日に行われる「たなばた」と、12月第2土曜日に行われる「報恩講」がそれだ。

なぜこの時だけ土曜日に行われるのかといえば、「打ち上げ」のためである。Z寺

日曜学校スタッフOB・OGが全国から駆けつけ、現役スタッフにご馳走してくれるのである。貧乏学生であった私は、そのご馳走が本当に楽しみだった。

しかし年に二回のビッグイベントでは、スタッフによる演し物が恒例であった。そして、たなばたは人形劇、報恩講は影絵劇と決まっていた。製作・練習期間はおよそ一カ月半。

最初のたなばたでは、人形劇「泣いた赤鬼」をやった。人形製作から脚本まで、すべてスタッフの4人でやらねばならない。立稽古<sup>たてげいこ</sup>をやったりもするのだが、2回生のNさんは人形劇研究会に所属（宗<sup>しゅう</sup>育<sup>いく</sup>部<sup>ぶ</sup>内<sup>うち</sup>に<sup>に</sup>は<sup>は</sup>所<sup>しよ</sup>属<sup>じゆく</sup>日<sup>にち</sup>曜<sup>やう</sup>学<sup>がく</sup>校<sup>がう</sup>以<sup>い</sup>外<sup>がい</sup>に<sup>に</sup>、研<sup>けん</sup>究<sup>きゆう</sup>会<sup>かい</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>っ<sup>っ</sup>た<sup>た</sup>）していたので、いつもの優しさはどこへやら。厳しい指導には参ってしまった。無事終えた打ち上げの席では、なぜか記憶をなくしていた。ホッとするやら嬉しいやらだったのだろう。

今でもあの頃のことによく思い出します。私の原点となる毎日でした。あの頃支えてくださった皆さま、本当にありがとうございました。

それではそろそろ紙幅も尽きましたので、このへんで。

### 校友紹介

\*前号で「宣伝、広告を募集します。また何でもいいので投稿を——」とお願ひしましたが、何の応答もありませんでした（当然っちゃ当然か……）。  
そこで今号では、事務局準備の企画を掲載させていただきます。

### 「指方恭一郎」さんを存じますか

#### 三足のワラジをはいて



この北豊支部会員のなかに、「小説家」といわれる人物がいます。2ページの校友リレーエッセイに寄稿いただきました日野真人<sup>まこと</sup>氏がその人です。そんな立場の人ならば嫌がらずに引き受けてくれるだろうと考え、まず第一発目にと事務局が依頼しました。S・Kのイニシャルの方にはいらぬご心配（!?）をおかけいたしました。

「え、日野真人さんなのに、なんでイニシャルがH・Mじゃないの?」と思っただ方、細かく読んでいただきました有り難うございます。実は日野氏、現在小倉北区宇佐町にある浄土真宗本願寺派寺院のご住職で、保育園の園長もしつつ、「指方恭一郎<sup>さしなつむらう</sup>」のペンネームで小説を執筆しています。

氏は平成16年に『首』で第11回さが大衆

文学賞大賞・笹川左保賞を受賞。続いて平成22年に『銭の弾もて秀吉を撃て』で第3回城山三郎経済小説大賞を受賞し、翌23年にはダイヤモンド社から、26年には日経文芸文庫より出版されました。

さらには平成23年には文春文庫より『長崎奉行所秘録／伊立重蔵事件帖—麝香ねずみ—』が刊行。以後シリーズ化されて、完結編の『同一フェートン号別件—』まで計六作が出版されています。

知る人ぞ知る、という感じもいたしますが、実は発会式のおり配付の校友会紹介パノフの〈校友の活躍〉という欄に「作家」として紹介されていますし、校友会誌『龍谷』No.71号（2011年3月発行）では2

### 会員登録のお願い

標記の件につきまして、へ入会申込書の提出とへ年会費の納入をもつて会員登録とするとご案内させていただいておりますが、必ずこの2点を行っていただきますよう、お願い申し上げます。

またこの会報は、現在、設立総会時のご案内にもお出ししていますが、来年度より正式にご登録いただいた会員のみといたします。入会ご希望の方は、お忘れなく手続きのほど、よろしく願ひいたします。

ページにわたり、大きく紹介されました。この上は、ぜひ直木賞でも取っていただき、この北豊支部でその祝賀会を行いたいものです。校友の皆さん、どうぞ何かの機会に手に取っていただいております。みんなで指方氏を応援いたしましょう。

指方氏の今後のますますのご活躍を念願いたします。

### 行事予定のお知らせ

2017（平成29）年度の「総会、懇親会」及び龍大吹奏楽部10名程度のアンサンブル演奏による「支部結成一周年記念コンサート」を左記により計画しています。後日、詳細を含め正式にご案内いたしますが、取りあえず日程を下記下さい。  
▼日時 6月17日（土）午後3時より



### 同一家族における会費設定について

標記の件につきまして役員会にて検討の結果、来年度より「同一家族については二人目より無料とする」と総会にて提案することとなりました。どうぞご家族に校友のおられませ方は、どうぞご入会をお勧めください。

但し、入会時に登録料として1,000円を申し受ける予定ですので、来年になったら得をするということはありません。出来るだけ今年度中のご登録をお願いいたします（ご連絡いただければ、いつでも入会申込書と郵便局用振替払込書をお送りいたします）。

### 事務局より

・カーブ応援の赤いうちわが配られての集合写真です。北海道支部の皆さん、つらい!?



◇ おまけ  
・本紙命名のお礼のお酒。「龍谷 グッズ」で検索出来ます。



☆全国支部長会  
・右端、大江です。吹奏楽部の0日で、日本シリーズのま横で挨拶している場面です(笑)くっけー。

龍谷真実館 1 北豊



☆「指方恭一郎」こと、日野真人氏  
・詳細3ページをご覧ください。



☆校友会女子会《龍RON小町》第2回総会  
・最後列、左から二番目が加藤さん。楽しい集いで何よりでした。今度また、みんなでどうぞ

・宗育部時代の日野氏。右上の写真とともに校友会誌「龍谷」より転載。な、な、なんと、若い！(当たり前ですが...)



事務局雑感

▼前号にてこの会報の名前を、と募集いたしました。が応募はありませんでした。そこで回りに尋ねてまわったところ、一件だけ「黎明」の名称をご提示いただき、即決定！となりました。ご提案者は村上充生氏(1972年・文卒、むらかみみちお)

前号では誤って「みつお」とルビを振ってしまい失礼いたしました。訂正の上、お詫び申し上げます。意味は「夜明け、明け方。新しいことが始まることとする」と、校歌の一番の歌詞からということ。有り難うございました。早速使用させていただきます。お礼として龍大オリジナルグッズより、純米吟醸「龍」の2本セットをお送りいたします。▼前号ではこの欄の表題を「編集雑記」としましたが、内容的にも心情的にもそぐわず「事務局雑感」と変更いたしました。この北豊支部も黎明期で、会費の件等も含め何事も試行錯誤の連続です。この会報にしても、名称の募集や投稿のお願いをしましたが当然のごとく返信はなく、今号の記事等々さくらからこそありませんが、すべて事務局からの依頼でした。いづれ皆さんからの投稿でページを増大せねばならないような事態にならないかと、かすかにですが期待しています。▼年度末を控え何かと多用のことと存じますが、どうぞお体お大事に。総会時にまたお互い元氣でお会いしましょう。 [記・〇]